



ほほえみ

発行 小山市教育委員会

小山市出身，コタンのシュ バイツァー「高橋房次先生」 を知っていますか？

高橋先生は明治15年
（1882）に間々田
村に生まれました。
彼はアイヌの人々
が医療に恵まれず苦
しい生活をしている



という話を聞き，大正4年（1915）に北
海道に渡りました。彼は「ひたすら尊い
人命をあずかる医療が，一個人の営業で
あってはいけない。

国費で貧しい人も富める人も差別なく平等に医療を受けられるようにすべきだ。」と周囲の人々に熱心に説き続けたといえます。

そうした信念を象徴するように、彼は患者に医療費を催促することを決してしませんでした。また、どんなに酷寒の真夜中でさえ、依頼があれば馬ぞりに乗って全身雪だるまのようになりながらも遠診療中の高橋先生くの開拓地まで往診しました。

当時、アイヌの人たちはあからさまに和人（日本人）から差別を受けました。道内の開業医はアイヌの患者には土間のような下座で待たせたのに対し、和人の患者には畳の部屋を用意していました。明らかな差別ですが、当時はこれが習慣とされていたのです。

